

環境方針

私たちは、最先端のバイオテクノロジーを担う企業として、事業活動が地球環境に与える影響を深く認識し、科学的知見に基づいた環境経営を推進します。研究検査サービスの提供と環境保全を高い次元で両立させるため、以下の指針に従い行動します。

1. 遺伝子組換え生物等の厳格な管理と拡散防止

「カルタヘナ法」および関連法令を厳格に遵守し、遺伝子組換え生物等の使用に際しては、実験施設の適切な維持管理と取り扱いプロトコルの徹底を最優先します。これにより、生物多様性への影響を未然に防ぎ、環境への意図せぬ流出を完全に遮断する体制を維持します。

2. 資源循環の推進とプラスチック・試薬の最適管理

研究検査活動に伴う使い捨てプラスチック器具の使用に対し、在庫管理の最適化による廃棄ロスの最小化に努めます。また、試薬等の調達においては、環境負荷の低い製品を優先する「グリーン購入」を推進するとともに、配送回数の集約（まとめ買い）による物流過程の温室効果ガス排出抑制を図ります。

3. 脱炭素社会に向けた設備投資とエネルギー管理

気候変動対策を経営の重要課題と位置づけ、エネルギー効率の高い研究環境を構築します。特に、超低温フリーザーをはじめとする主要設備においては、省エネ性能に優れ、地球温暖化への影響が極めて低いノンフロン冷媒採用機器への更新を組織的に進め、事業活動に伴う炭素足跡（カーボンフットプリント）の削減に努めます。

4. デジタル技術を活用した廃棄物・有害物質の適正管理

感染性廃棄物や有害化学物質の管理において、デジタル技術を導入したトレーサビリティの確保と厳格な処理管理を行います。マニフェスト管理等のデジタル化を推進することで、人為的エラーを排除し、透明性の高い廃棄物処理プロセスを確立するとともに、汚染防止と資源適正管理の高度化を追求します。

5. 環境意識の醸成と継続的改善

全役職員に対する継続的な教育を通じて環境意識を醸成し、一人ひとりが自律的に環境配慮を実践する組織文化を築きます。本方針に基づく取り組み状況を定期的に評価・見直しし、ステークホルダーへの適切な情報開示を通じて、社会と共に持続可能な成長を目指します。

2026年1月21日
プロテオブリッジ株式会社
代表取締役 熊谷 亮